

R7年度 前期学校評価アンケート結果

平素は、本校教育にご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。さて、7月に実施いたしました、前期学校評価アンケートの結果についてお知らせいたします。今年度も、「児童」「保護者・地域」「教職員」を対象にアンケートを実施しました。このアンケート結果は、特徴的な項目をピックアップして分析したものを掲載しております。

【生活面】児童・保護者 実現度ベスト5

1位から4位までは児童・保護者とも同じ項目になっています。



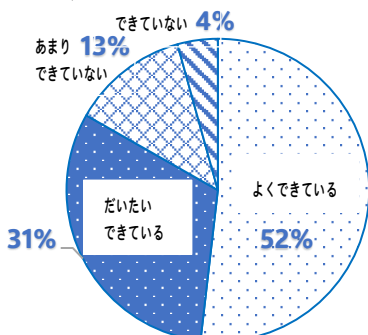
児 童			
R 7			R 6
1位	交通ルールを守り、安全に気をつけて登下校したり、地域で過ごしたりしていますか。	97.4%	96.1% (昨年2位)
2位	やってはいけないことは、しないようにしていますか。	97.0%	94.9% (昨年3位)
3位	友達に親切にしていますか。	96.8%	96.3% (昨年1位)
4位	相手の気持ちを考えて「ありがとう」や「ごめんなさい」など、自分の気持ちを伝えられていますか。	95.5%	94.3% (昨年5位)
5位	「いじめをしない」「いじめを見のがさない」ができていますか。	93.8%	94.7% (昨年4位)

保 護 者			
R 7			R 6
1位	お子たちがやってはいけないことはしないように働きかけていますか。	98.5%	97.7% (昨年1位)
2位	お子たちが友達に対して親切な対応ができるように声をかけていますか。	96.8%	95.8% (昨年2位)
3位	お子たちが安全に気を付けて登下校したり、放課後に地域で過ごせるように働きかけたりしていますか。	92.6%	93.7% (昨年3位)
3位	お子たちが相手の気持ちを考えて、礼儀正しい行動をすることができるよう働きかけていますか。	92.6%	93.3% (昨年4位)
5位	お子たちが約束した時間を守ることができるよう働きかけていますか。	91.2%	91.2% (昨年5位)

生活面での実現度が高い項目を上位から順に5つ挙げると、上記のようになりました。令和6年度（前期）の結果と比較しても、同じ項目が上位に挙がっており、児童・保護者ともにこれらの項目に対する意識が高いことがうかがえます。特に「安全」「礼儀」「思いやり」に関する項目の実現度が高いことが明らかになりました。その中でも安全面に関しては、学校生活内での安全指導に加え、ご家庭での声掛け、見守り隊やスクールガードリーダーの方々による日々の見守り活動等、多方面から児童に働きかけが行われていることが、子どもたちの安全に対する高い意識の継続につながっていると考えられます。

今後も家庭や地域と連携しながら、子どもたちの健やかな成長を支えていきたいと思ひます。

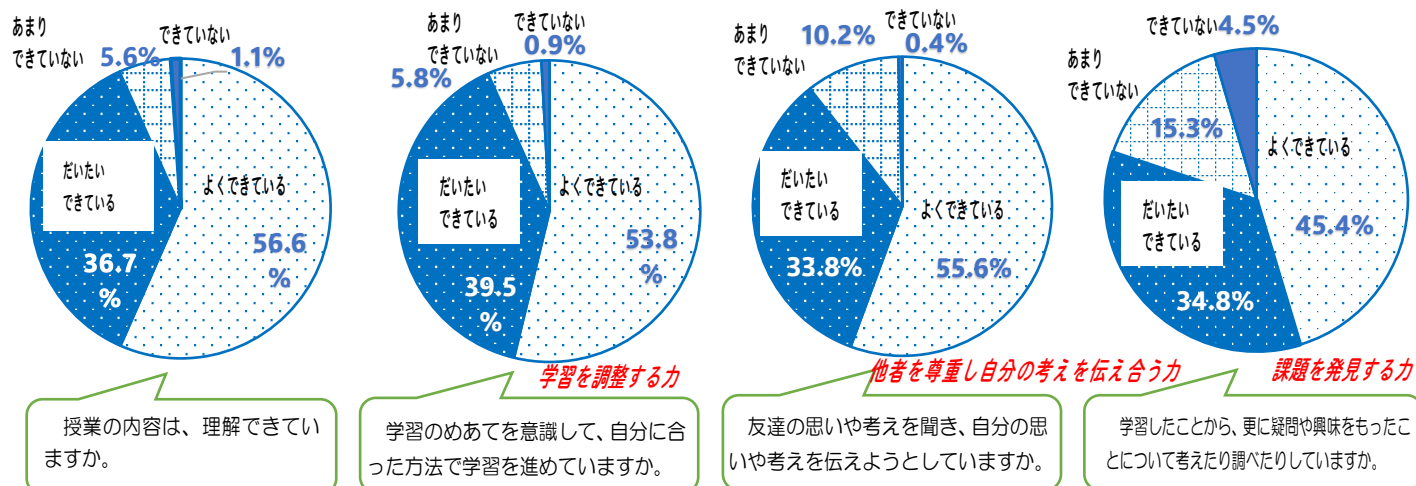
◆ロッカーや机の中を使いやすいように整理・整頓していますか。(R7 児童) ◆



生活面での実現度が最も低かったのが、「整理整頓・忘れ物防止」に関する項目でした。特に「整理・整頓」に関しては、約2割の子どもたちが否定的な回答をしており、課題があることが明らかになりました。環境を整えることは、安心・安全で楽しい学校生活を送ることの基盤となります。そこで学校では、子どもたちが自分の机の中やロッカーの点検を習慣化できるように声掛けをしたり、教室を常に整理整頓された状態に保つよう、大人が見本を示したりするなどの取組を進めています。

今後も、児童の整理・整頓に対する意識を高めるための働きかけを継続し、より良い生活習慣の定着を図っていきます。

【学習面】児童 実現度（本校の研究に関する項目）



今年度、嵯峨野小学校では、「**学習を調整する力**」・「**他者を尊重し自分の考えを伝え合う力**」・「**課題を発見する力**」の育成に重点を置き、児童の資質・能力の向上を目指して取り組んでいます。教職員は、あらゆる教育活動の場で、これらの力を育成するための工夫を意図的に行ったり、児童一人一人に応じた声掛けをしたりしています。

今回の児童アンケートの結果を見ると、ほとんどの項目で肯定的な回答が90%以上を占めており、児童が自分に合った方法で学習を進め、友達と交流しながら学びを広げたり深めたりすることを意識している様子がうかがえました。しかし、「学習したことから、更に疑問や興味をもったことについて考えたり調べたりしていますか」という項目では、肯定的な回答が80%程にとどまっていました。これは、生活の中の様々な事象に対して疑問をもち、各教科で培った力（教科の見方・考え方）を活用しているかを問うものです。児童が自分に合った学び方を自己選択・決定し、他者と共に主体的に学び続けることができる授業を継続的に実践していくことで、「課題を発見する力」が更に育まれるのではないかと考えています。

また今年度から、算数科において重点単元を設定し、児童一人一人が自分に合った進め方や学び方を通して、自己の学びを計画的に進めていく「自由進度学習」にも取り組んでいます。今後も継続して、子どもたちが自己の課題と向き合い、様々な学び方や多角的な考え方を通して計画的に課題解決へ向かえる力を身に付けられるよう、教育活動を展開していきます。

学校評価を終えて

今回の学校評価を通して、どのアンケート項目においても肯定的な回答が多く得られました。このような結果はここ数年継続しており、学校と保護者・地域が共通理解のもと、同じ方向を向いて子どもたちを支えていることが、大きな要因であると考えられます。

アンケートの記述欄には、昨年度から導入している「学年担当制」に関して、「様々な大人と関わりながら育っていくことの良さ」についてのご意見や、「すぐーる配信」のメリットを挙げてくださった記述が多く見られ、新たな取組が浸透しつつあることを実感しました。一方で、「困りごとがあったときに、誰に相談すればわからない。」や、「紙媒体で知らせてほしい内容もある」といったご意見も少数ながら寄せられました。

社会の情勢が大きく変化するこの時代にあって、子どもたちが柔軟に対応できる力を育むとともに、私たち大人もその子どもたちに寄り添いながら、思考を柔軟に変化させて対応していく必要があります。今後も、嵯峨野地域のすべての人が Well-being を感じられる嵯峨野小学校を目指して、歩みを進めてまいります。